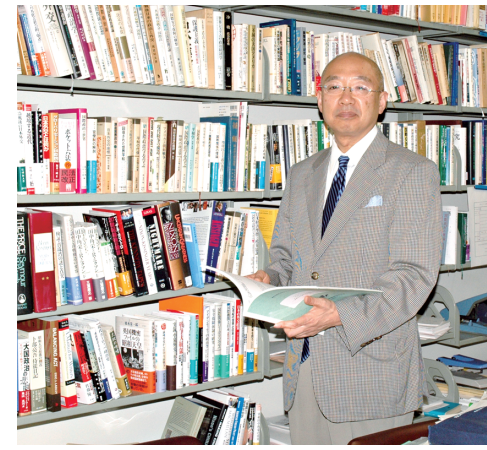


# 沖縄返還と日米繊維交渉の裏側を追う

## 法・信夫隆司教授

国際政治学・国際関係史 授、故人が死の直前に中核とする研究に取り組んでいる。中でも昭和44年の沖縄返還を巡る二クソン米大統領と佐藤栄作首相の日米首脳会談の「秘密合意」ともいふべき文書の解明と、同じ時期に進められた日米繊維交渉の解明にも精力を注ぎ、米国立公文書館へ度々足を運んでいる。



これまでに収集した日米繊維交渉に関する電話記録集を手に

ける資料を3年前に同公 文書館で発見した。 沖繩返還に関しては①が存在しているといわれている。 若泉氏の著作によると、当時の国際電話は交換手を通しての通話だったので、若泉・キッシンジャー間の通話では盗聴の恐れがあったので、両者間で核問題の意で使う言葉は「イテムー」、核持ち込みを定める秘密の合意には「スモールルーム」などという言葉にするなど独特の暗号を使用したとされているが、開示記録の中には実際にスモールルームな

## 沖縄返還に3つの密約

### 日米の両方から実態を解明 若泉敬にも関心を示す

この表現が使われていた。教授の研究はもともと環境問題が主だった。関

環境に関する国際会議として国連人間環境会議がスウェーデン・ストックホルムで開催された。

#### 捕鯨問題がきっかけ

そこで商業捕鯨を10年間禁止するという勧告案が出されたが、これを可決させるために、裏でキッシンジャーが動いていたのではないかとまことしやかに言われていた。 キッシンジャーはもとも安全保障中心で、鯨などという経済に関することにかかわりを持っていないのかどうかを調べるために公文書館に赴いた。実はこれがきっかけとなった。

#### 25年後に出版のナゾ

著者の若泉氏は思想的に右というか保守的で、



9月にグアムで実施した海外研修ゼミでの記念撮影。前列中央が教授

信夫 隆司(し)の 養学科助教、岩手県ぶ・たかし) 昭和50年 立大総合政策学部助教 法学部法律学科卒。53 授・教授を経て、17年法 年大学院法学研究科 学部教授。専攻は国際 (修士課程) 政治学・国 修了。56年 際関係史。 米ポートルランド州立大 現在、日米繊維交渉を 大学院(修士課程)政治 研究中。日本政治学 学専攻修了。法学部助 会、日本国際政治学会 手、武蔵野短大国際教 所 山形県出身。54歳

#### プロフィール

ることによって、米国側、日米繊維交渉にも関心 日本側の両方から日米繊維交渉の実態を解明してではなく、日本側の繊維 いきたい」とこれまで6集 交渉に関する文書もかな までまとめ上げ、全部で 8集までの予定で作業を 開法に基づいて収集した 進めている。 今年度から3年間「若 泉敬と日米繊維交渉」の 研究テーマに科学研究費 がついた。

## 大衆文化から読み解く「昭和」の研究

### 文理・古川隆久 教授



研究室で書物を手にする古川教授

研究課題は日本近現代 うしてあんな戦争(日中、史像の再構築である。中 太平洋戦争)になったか 心は昭和の政治史で、「ど が研究のスタートライン

となつている。 古川教授の研究のユニークさはその切り口にある。例えば、政治家の権力闘争だけを見るのではなく、「世の中全般の社会や政治に関する考え方を踏まえて、権力闘争などを見ないと分からないのではなか」という点で、

映画を喜んで見ていたか などの情報は、当時にお いては誰もが知っている うつながっていったかを 「中国にすこし強い態度 でやってもいいか」とな った。また軍人やエリー

国際的に大きな転機にな った、と分析する。 「それまで中国は尊敬す る立場だったが、アジア で日本が一番と思うよう になり、中国を見くびり、 『中国にすこし強い態度 でやってもいいか』とな った。また軍人やエリー

## なぜ戦争が起きるのか 繰り返しの歴史だからこそ学ぶ

ワイアンバンドが人気を 博した例を挙げ、また 上の発展。一般国民は 国内の団結が緩んだ。こ の二つの要素から、なし 崩しの戦争になった」 である。さらに日清戦争 (1894年) 明治27年 歴史を学ぶきっかけは、 小中学生時代に社会科が

#### 日本には民主化の芽

ト官僚が国民を見下し、 国内の団結が緩んだ。こ の二つの要素から、なし 崩しの戦争になった」 である。さらに日清戦争 (1894年) 明治27年 歴史を学ぶきっかけは、 小中学生時代に社会科が



ゼミで学生を指導する古川教授

好きだった上、テレビで 見た真珠湾攻撃を描いた 日米合作映画「トラトラ トラ」をはじめとする戦 争映画を何度か見ている 奏。中学でクラシック音 楽が好きになり、都立西 高時代は部活でオーケス トラに入ったほど。

現在、アメリカが行って いるイラク政策では、「日 本で成功した戦後の民主 化がよく言われる。しか し、イラクはイスラム圏で 政治文化が全く違うのだ が、それはさておき、日 本の場合は民主化し易い下 地があった。大正デモク ラシーを経て、戦前から女 子の参政権が国会でも議 論され農地解放政策も大 正期から計画されていた。 戦争遂行には、国内の不 満は解消しなければなら ない事情はあったにせよ、 世界の有力国に残りたい、 ということが大正期から 続いていたのである。 今の時代は戦前に似て きたといわれる。「雰囲気 的にそういわれているが、 戦前と決定的に違つのは、

軍人や官僚が権力を持つ ことがないという点。国 民に責任がある時代です。 るものの連続」という。 それでも伝えていかなければならないものだとい う。「人間は同じことを繰 り返す。だから歴史を学 ぶことは大事になる。異 文化体験みたいなもので、 古川教授の歴史と社会 的授業に「戦争論」があ いた」と、歴史離れ “ を懸念していた。

#### プロフィール

古川 隆久(ふるか) 部教授。史学会、日本 わ・たかひさ) 平成4 歴史学会、メディア史 年東京大学大学院人文 研究会に所属。「皇紀・ 科学研究科博士課程修 万博・オリンピック」 了。博士(文 学)。広島大 学講師、横浜市立大学 秀樹記念大衆文学研究 助教授などを経て、平 賞を受賞。東京都出 成18年4月から文理学 身。45歳。